

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 集中	必修選択 選択	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	全学乗船実習 Training Cruise for General Students		
対象年次 1・2年次	講義形態 乗船実習	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 総合科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 担当教員: 高木保昌 /Eメールアドレス: takaki@net.nagasaki-u.ac.jp /研究室: 水産学部本館3階 /TEL:095-819-2801 /オフィシアワー: 月・金曜日1200~1300			
担当教員(オムニバス科目等)	長崎丸教員		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 教養特別講義「海洋と文化」で学んだ内容を、より身近な問題として実践的な視点で捉えるため、附属練習船長崎丸に乗船して航海を体験する。これらの体験により、海洋環境や海洋生態系、あるいはそれらと人間の営みを肌で感じ、より深く理解すると共に、異分野の学生が船内生活を通して、通常のキャンパスライフでは困難なコミュニケーション能力、多角的視点、協調性などを修養する。  授業方法: 乗船実習中に操船(舵を握り船を走らす)、海洋観測、トロール操業(魚の分類、魚体測定)、魚類の加工、ロープの結び方等の演習を行う。また、一時上陸して、水族館、魚市場等の見学を行う。  授業到達目標: 海洋および船舶に慣れ、親しみ、航海・運用術、海洋観測の基礎的実習及び海・船・人間の関係について関わりを習得。また、船内での団体生活の体験により、協調性・寛容性を習得する。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 海には色々な用途を持った船が動いているが、その内の練習船長崎丸は水産学部学生の実習・調査・研究のため運航されている。その船を使って船舶運航、漁労、海洋観測を行い、海洋・船への関心を深める。また、漁獲された魚がどのように人間の生活に関係を持っているのか実習・見学にて行う。異分野の学生同士が船内居住・生活を通してコミュニケーションを深めて行く。 事前講義Ⅰ 実習の目的・概要・船内注意事項・見学施設等についての 事前講義Ⅱ 船、海洋観測、トロール操業等に関する基礎知識 実習1日目 乗船 船内ガイダンス(船内設備、注意事項等の説明) 海洋観測、トロール操業、非常配置表等の説明、日没後プランクトン採集 2日目 天候・海況により、①~③のいずれかを実施 ① 海洋観測、トロール操業、漁獲物調査、ロープ結索練習(於 東シナ海) ② 海洋観測、救命艇操練、ロープ結索演習、(於 操練が行える湾) ③ 海洋観測、船の位置測定練習、ロープ結索演習、(於 位置測定が行える湾) 3日目 入港、陸上水産施設(水族館等)の見学 4日目 陸上水産施設(魚市場等)の見学、出港 魚類の加工(干し物等の作成) 5日目 下船時のガイダンス(予定、注意事項等の説明) 下船 事後講義 実習の総括、レポート課題等の説明等 補足事項 ・ 天候・海況によっては、実習の内容を大きく変更することがある。 ・ 事前・事後講義(於 文教キャンパス)および実習の日程は、別途通知する。			
キーワード	練習船・海洋実習・海洋観測		
教科書・教材・参考書	事前ガイダンス、船内ガイダンスの際に資料を配付する。		
成績評価の方法・基準等	実習への取り組み状況 70% レポート 30%		
受講要件(履修条件)	・受講定員は40名(希望多数の場合は、抽選により受講者を決定する) ・受講者は、必ず傷害保険に加入すること。 ・受講にかかる費用は食費(4日分)および陸上関連施設利用料 計6,500円程度		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	乗船数日前、準備学習等は説明する。		